

高校つぶしでなく 30人学級を!

大阪府教育委員会は昨年度生まれた子どもの数をもとに、15年後の2040年の府立高校数を「104校程度(32校減)」と試算しました※1。しかし、その前提は全国から見て過大・過密な「40人学級・1学年7クラス」の学校規模。「30人学級」なら一校も減らす必要はありません。今年度から小学校全学年が35人学級となり、来年度から中学にも拡大されるなか、「高校だけ15年先まで40人学級」など不当です。不登校・中退の増加など、高校も今まで以上に一人ひとりに行き届いた教育が求められています。少子化だからと学校を減らすのではなく、少子化をチャンスに欧米並みの少人数学級※2に踏み出すべきです。

※1 府立高校改革アクションプラン案

※2 OECDの平均は23人学級

門真西高校・
懐風館高校を
なくさないで!

公立高校の「定員」は
「ゆとり」があって当たり前!

マスコミは「府立高校の定員割れ」を大きく報道し、府教委は、「定員に満たない状況が続いている」として、府立門真西高校、府立懐風館高校を2027年度から募集停止すると発表しました。しかし、そもそも公立高校の定員にはゆとりがあって当然。府教委は「就学セーフティネット」として、毎年、進学予定者数を上回る定員を設定しています。進学保障のための「ゆとり」を理由に学校をつぶすなど、道理がありません。府立学校条例の「3年連続して定員に満たなければ再編整備」の規定は、撤廃すべきです。

今の予算を維持するだけで改善が可能です

	2025年	2040年
府内公立中学校卒業生数	65,710人	49,490人
府立高校数	40人学級 136校	104校(▲32校)
	30人学級	136校(±0校)

※府教委の試算をもとに作成

大阪の高校を守る会

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11-707 ☎ 06-6768-2106 [2025年9月発行]

署名にご協力
ください

署名用紙は、
<http://www.fukokyo.org/>
からダウンロードできます。



少子化をチャンスに教育条件改善!



府立高校はすでに40校も廃校に！

子どもたちの「学ぶ権利」をまもれ

どの地域にも自転車で通える高校を



市内唯一の高校を廃校に!?

府内市区町村の51.4%が 「公立高校ゼロか1」

懐風館高校は、15年前、西浦高校・羽曳野高校の統廃合でできた学校。廃校にすれば羽曳野市内の高校はゼロになります。門真市も、門真西高校が廃校になれば、もともと3校あった高校が1校に。府立高校つぶしは地域こわしです。

【条例制定後の廃校】(地図参照)

- すでに廃校になった学校
- 廃校方針が決定された学校
- 今回、募集停止案が発表された学校

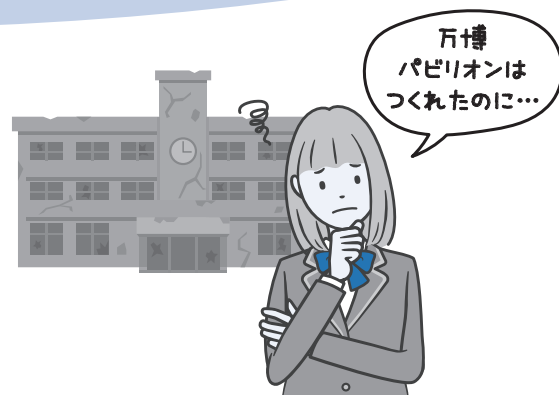
【条例制定前の廃校(全日制)】

門真南・玉川・守口・八尾南・高槻南・上神谷・白菊・枚方西・加納・南寝屋川・横山・城山・少路・鳥飼・四條畷北・清友・西浦・砂川

老朽校舎はすぐに建て替えを！

府立高校の約7割は築40年以上。多くの学校で「雨漏り」が問題になっています。ところが、府は「長寿命化」と称して、建て替えの対象を築70年に延ばし「再編整備と一体に」※などと言っています。70年超えの学校は現在4校ですが、5年後にはさらに7校増えます。「魅力化・特色化」という前に、必要な全校をただちに建て替えるべきです。

※ 府立高校改革アクションプラン案



私学「無償」でもやっぱりお金はかかる

私学「完全無償化」などと言っていますが、無償になるのは授業料だけ。それも入学時にはいったん納めなければならず当座のお金が必要です。また、平均20万円以上の入学金や、制服、指定鞆などの物品代、修学旅行代など支出があり、「上の子は私学にやったけど下の子は無理」との声が…。「学ぶ権利」保障のためには、地域に公立高校が必要です。

